



## Asian Productivity Organization “The APO in the News”

Name of publication: Tekko Shimbun (26 November 2014, Japan)

Page no.: 1

**金属行人**

紙面でもよく掲載される生産量や輸出入量といった統計。数字ばかりの列記は無味乾燥だが、冗長にあれこれ説明するより時として数字の方が雄弁に語れることもある。付き合ひ方は悩ましい▼そんな統計にあふれている情景が、海外の新興国では一変する。統計自体があまり整備されていない。そ

んな国々のマクロ経済指標を分析し、アジア生産性機構と慶應義塾大学産業研究所が「APOプロダクティビティ・データブック」としてまとめている▼これは人口動態などから労働生産性を比較したものだが、見ると今後どの国の成長性が高そうか感じ取れる。例えば総人口に対する労働者比率はどの国も45〜55%で頭打ちとなる傾向にあるが、ここに達していない国はどこか。若い0〜14歳の世代がどれだけ人口構成を占めているか、なども一目瞭然とわかる▼

これら分析を踏まえ、慶大の野村浩一准教授は2030年に向け中国の経済成長は鈍化していくものの、パキスタン、フィリピン、インドネシアでは高度経済成長期に入り、インドやインドネシアでは労働人口が大きく増えると予測している。「ポスト中国」はどこか、統計比較がその一端を示している。

(鉄鋼新聞 2014年11月26日付 1面)